

●特別展示室

No.	名称	法量等 (cm)	年代等	所蔵先	解説
参考1	ほんだだたかつがぞう 本多忠勝画像 (パネル展示)	124.0×64.0	桃山時代	個人 (原資料)	譜代大名本多家の家祖、本多忠勝の画像。具足着用時の姿を描く。
1	いんしょう・かおらがた 印章・花押型	9個　1つあたり3～5cm程度	江戸時代	岡崎市・龍城神社	本多家歴代当主の印章と花押型。印章は順に11代忠肅、12代忠典、13代忠顕、14代忠考、16代忠直のもので、花押型は順に11代忠肅、12代忠典、14代忠考、15代忠民のもの。
2	とくがわいえなりしめいんじょううつし 徳川家斉朱印状写	46.3×66.0　紙本墨書	天明8年(1788)3月5日	個人	天明8年(1788)に11代将軍の徳川家斉から本多家12代忠典に下された領知朱印状の写しである。額田郡80ヶ村、碧海郡58ヶ村、幡豆郡5ヶ村の合わせて5万石の領地と記される。
3	とくがわいえなりしめいんじょうもくろく 徳川家斉領知目録	46.4×273.6　紙本墨書	天明8年(1788)3月5日	個人	朱印状に添えられた領知目録である。朱印状では5万石と記されているが、目録では新田改出等を含め総高は60,383石余となっている。
4	とこるがえにつきほんだだつねがんしよ 所替えにつき本多忠典願書	15.0×161.2　紙本墨書	安永7年(1778)7月	岡崎市美術館	この願書は安永7年(1778)に本多家12代忠典が幕府老中らに所替えを内密に願い出たもの。これによると、近年借入金が15万両余あり、岡崎では水害による減収に広大な岡崎城の修復、矢作橋の修繕、勤使などの接待などで費用がかかりすぎるため、所替えを希望するという。結果、所替えは認められなかったが、幕府より1万両の拝借金を得ることとなる。
5	おかざきじょうず 岡崎城図	156.2×150.3　紙本著色	江戸時代末期～明治時代初期	岡崎市美術館	図上に城郭各所の名称と、歴代城主・路沿革が記されている岡崎城絵図。明治維新後の岡崎城取り壊し直前のもと思われる。城郭内の本多家臣の屋敷の配置が記されているが、低地である白山曲輪・稗田曲輪・菅生曲輪に空き地が目立っている。
6	さんしゅうおかざきにのまるごじゅうきょう 参州岡崎二之丸御住居図	45.7×33.2　紙本著色	安永6年(1777)	岡崎市美術館	藩主の御殿があった岡崎城二の丸の住居の間取り図。二の丸は藩政を執り行う場でもあった。ちなみに二の丸跡地は現在当館(三河武士のやかた家康館)が建っている。
7	ろうじゅうれんしよほうしよ 老中連署奉書	40.5×56.4　紙本墨書	天明3年(1783)11月3日	個人	田沼意次ら老中3名の連署で本多家12代忠典に石垣修理の許可を与えたもの。江戸時代は城郭の修理を行う場合は幕府の許可が必要で、城郭修理の費用はもちろん藩で負担しなければならなかった。
8	すづがわどおりこうずいみづ 菅生川通洪水絵図	136.5×114.8　紙本著色	江戸時代	岡崎市美術館	岡崎城下の水害の様子を描く。江戸時代中期以降、天井川化した矢作川は頻繁に洪水を起こすようになり、矢作川に面する西側と菅生川に面する南側は度々被害を受けた。城内でも低地の白山曲輪や菅生曲輪も被害にあったことが着色からわかる。
9	やはぎがわこうずいさんしよりやくみづ 矢作川洪水損害所略絵図	27.0×39.0　紙本著色	寛政4年(1792)7月13日	岡崎市美術館	寛政4年7月13日に起こった洪水の被害を受けた地域を図示したもの。矢作川流域の至る所で洪水が起こっている。
10	ほんだだつねかちゅうとりしまりおぼえがき 本多忠典家中取締覽書	33.0×45.8　紙本墨書	安永7年(1778)12月1日	個人	本多家12代忠典が財政再建のために儉約・ならわし・武芸学問の3ヶ条を守ることを誓ったもの。「東照宮様并靈神様」は徳川家康と本多忠勝のごことで、現在の自分は2人の威光によるものであると敬意を表している。
参考2	なかねたかたがぞう 中根忠容画像 (パネル展示)	90.2×34.1	文化11年(1814)	中根家 (原資料)	寛政期、岡崎藩の財政改革の中心人物であった中根隼人忠容の画像である。天明7年(1787)に勝手方掛りを命じられ、寛政5年(1793)より財政改革にあたった。本図は家老隠居後、63歳の忠容を描いている。
11	ほんだだつねしよじょう 本多忠典書状	39.0×52.2　紙本墨書	天明7年(1787)12月15日	岡崎市美術館	本多家12代忠典が勝手方掛りを中根隼人忠容に申し付けたもの。これにより中根忠容は財政再建に取り組むことになる。「上納金未上納」は安永7年に幕府に所替え願いを出した際に得た拝借金1万両のことと思われる。
12	ほんだけかつてむきなんじゅうにつきこうじょう 本多家勝手向き難渋につき口上	15.6×187.3　紙本墨書	寛政4年(1792)10月	岡崎市美術館	中根隼人忠容がしたためた、本多家再興についての願書草案。その中で岡崎は割に合わない地であるので、以前の15万石に戻すか、5万石の預け地追加か、それともかなわないなら5万石で実際には10万石の収納がある場所への所替えを願う。
参考3	おかつてのしだいき 御勝手の次第記 (パネル展示)	24.5×15.5	天明7年(1787)～寛政11年(1799)	中根家 (原資料)	寛政5年(1793)から同11年末までの改革による岡崎藩の財政状況を記したもの。中根忠容の目的は、他借なしの収納米のみで岡崎藩の運営を執り行うことであった。財政改革は最初の3年程は順調に推移をしている。
13	そうまくり 惣まくり	16.5×61.5　紙本墨書	江戸時代	岡崎市美術館	惣まくりは本多家始祖忠勝の遺訓とされる。寛政5年(1793)8月からの中根隼人忠容の財政改革に向けて、家中一同で披覧して意忠統一が行われた。
参考4	みたにきさふらうかつてがたうけししょうつし 三谷喜三郎勝手方請書写 (パネル展示)	27.8×40.5	寛政5年(1793)7月	中根家 (原資料)	江戸の両替商である三谷喜三郎が岡崎藩勝手方を請け負うことの証書。この中で岡崎藩の米と金銭の出入りについてあらゆるところで助言を行うとし、実質的に三谷が蔵元同様の役割を担っていたことがわかる。
参考5	み　たにきさふらうさんぜんりょうあずかりしょうもんうつし 三谷喜三郎三千両預かり証文写 (パネル展示)	27.6×40.8	寛政5年(1793)7月	中根家 (原資料)	江戸の両替商である三谷喜三郎の岡崎藩勝手方請負にあたって、まず3000両が岡崎藩から三谷に預けられた。本書はその預金証書である。名目は武器修復料となっている。
14	ごしゅうのうさひきもくろく 御収納差引目録	14.2×38.5　紙本墨書	寛政8年(1796)	岡崎市美術館	財政改革期間の寛政5年(1793)8月から同8年7月までの3年間の岡崎藩の収支勘定書。これによると寛政5年4633両余、6年2302両余、7年3278両余の余剰金が発生し、合わせると1万両余になる。この余剰金は資金融通先の蔵元であった江戸商人三谷喜三郎への預金となる。
参考6	おかつてのしめき 御勝手ノ記 (パネル展示)	15.7×223.5	寛政11年(1799)	中根家 (原資料)	中根忠容が寛政5年(1793)から5年間の財政改革の成果を岡崎藩主本多忠顕に報告したもの。藩の運営を支障なくこなしながら、三谷喜三郎への預金を1万両備蓄できたことを主たる成果とする。

●1階展示室

No.	名称	法量等 (cm)	年代等	所蔵先	解説
15	てんぼうさんねんおんかざきたいかのず 天保三年岡崎大火の図	28.1×39.8　紙本墨書	天保3年(1832)	岡崎市美術館	天保3年8月20日の昼頃に岡崎城内対面所から出火し、火の手は南風にあおられ西や北に広まった結果、材木町、連尺町、横町、能見町を焼いたという。この岡崎大火により、土蔵を含めた民家300軒が焼失した。本図は各方面で火の手が止まった場所を記している。
16	おかざきじょうかちしょうしつぞう 岡崎城下焼失絵図	83.6×39.1　紙本墨書	天保3年(1832)	岡崎市美術館	天保3年8月の岡崎大火による岡崎城下の焼失箇所を赤色で示す。
17	ほんだだたもがぞう　たなかそうかくひつ 本多忠民画像　田中宗確筆	46.0×32.3　絹本著色	明治時代	岡崎市美術館	本多家15代当主 忠民を描く。本画像は髻を落としていることから明治期のものと思われる。田中宗確は本多家旧臣。
18	ほんだだたもごしよ 本多忠民御書	38.6×42.1　紙本墨書	天保9年(1838)	岡崎市美術館	天保7年9月に起こった三河加茂一揆に関して武力鎮圧で功績のあった岡崎藩が将軍の御意になかったことを藩主 忠民から中根忠祐ら国元家老4人に伝えたもの。
19	ほんだだたもとしよじょう 本多忠民書状	35.6×49.5　紙本墨書	天保12年(1841)12月28日	岡崎市美術館	本多家15代忠民が中根隼人忠祐に勝手方責任者を申し付けたもの。包紙から天保12年に出されたものとわかる。
20	しよ「ききんこうしよ」とくがわいえもんちつづ 書「左琴右書」　徳川家茂筆	116.3×40.1　紙本墨書	江戸時代	個人	本多家15代忠民が老中在職中に14代将軍家茂から拝領したものとされる。忠民への将軍家茂の信任の厚さが伺われる。
21	けんやくくい 侯約令	28.3×276.5　紙本墨書	寛政12年(1857)	個人	岡崎藩額田手永内の村々の侯約令順守の誓約書。侯約令自体は既に仰せ出されていたが、改めて内容を確認するとともに、今後5年間それを守ることが述べられている。
22	ごかいせいし、ほうちしょう 御改正仕法帳	25.1×17.0　紙本墨書	安政5年(1858)	個人	本多家15代忠民が岡崎藩の財政再建のために打ち出した仕法書。安政5年11月、岡崎城で仰せ渡され、各村で写し取ったもの。冒頭で藩の財政状況を具体的に数字で示し、領民に侯約・緊縮財政への協力を促す。
23	へんきんこうごかにほうぶんごうちょう 返金講御加入分帳	12.4×34.7　紙本墨書	嘉永6年(1853)	個人	領民から藩の御用金を徴収するため、この時期に岡崎藩は返金講・積金講と呼ばれる会合を頻繁に実施させている。嘉永6年(1853)には領内の6手永に合計1万両余の加入が命じられている。その結果、額田手永では示された2250両のうち250両を御用聞たちから集め、残りは手永内の村々に割り振っている。
24	きしゅうおかしつけじょあてさいいれひきあてちょう 紀州御貸付所宛差入引当帳 (付:紀州御貸付所宛借用につき願書)	34.0×24.3　紙本墨書	安政3年(1856)11月	長尾隆司氏	岡崎の佐伯太郎右衛門ら7人の商人が米切手を担保に紀州藩貸付所から3000両を借用したことを証明するもの。実質的には藩が借用したもので、幕末期岡崎藩の財政運営で活躍した藩士の長尾応次郎與連の名前も見られる。また、「差入引宛帳」と合わせて願書も提出された。
25	ながおおちかがぞう 長尾興親画像	81.9×33.2　絹本著色	江戸時代	長尾隆司氏	長尾家4代、応次郎興親の画像である。岡崎藩勘定奉行として藩財政の運営面で活躍、家督高50石から500石取りに出世した。天保6年(1835)、71歳で没した。
26	ながおおちかがぞう 長尾與連画像	91.3×31.6　絹本著色	江戸時代	長尾隆司氏	長尾家5代、応次郎興連の画像である。4代興親の4男であったが、兄が病弱・早世であったため家督を継ぐ。天保10年(1839)に父と同じ勘定奉行に任命され、幕末期の財政改革の推進役を担う。西洋砲術師範役も務め、和歌を好んだ。明治2年(1869)、61歳で没。
27	おかざきはんちじにんめいしよ 岡崎藩知事任命書	52.3×65.6　紙本墨書	明治2年(1869)6月	個人	明治2年(1869)6月、最後の岡崎藩主本多家16代忠直の岡崎藩知事への任命書。前藩主 忠民は同年2月15日に隠居願いを提出しており、忠直が藩主となっている。
28	みかわのくにおかざきじょうないけんちょうず 三河国岡崎城内県庁図	110.1×136.5　紙本著色	明治時代初期	岡崎市美術館	廃藩置県により、明治4年(1871)11月に額田県が設置された際に旧岡崎城二の丸に設けられた県庁の絵図。県庁は旧二の丸の御殿を転用したと思われる。御殿のうち藩庁と藩主の居住域をつなぐ部分は撤去され、藩主の居住区域は県庁の令官邸として独立した。
29	せつちゅうなんてんにししょうきんず　ほんだだだつねひつ 雪中南天に小禽図　本多忠典筆	83.4×32.3　絹本著色	江戸時代	個人	岡崎藩主の本多家12代忠典の自筆によるもの。南天の赤い実を啄む小禽を描く。当時流行していた江戸の宋紫石風、沈南蘋風の画である。
30	けいしゅうず　ほんだだだつねひつ 菊頭図　本多忠典筆	37.0×62.5　絹本著色	江戸時代	岡崎市美術館	岡崎藩主の本多家12代忠典の手によるもの。ヒユ科の1年草である鶏頭に小菊を添える。空中には2匹の蜜蜂を描く。
31	あさひにたけず　ほんだだあきみつ、まつだいらよりかたさん 朝日に竹園　本多忠顕筆　松平頼謙賛	45.6×70.0　絹本著色	江戸時代	当館	岡崎藩主の本多家13代忠顕の筆による作品。画面中央に輝く朝日と手前に雄々しく茂る竹林を描く。図上には忠顕の実父綺窓主人(松平頼謙)が「節々に千世の聲鴉々として竹の春」と賛を寄せている。
32	せいりょくさんすいず　ほんだだあきみつ 青嶺山水図　本多忠顕筆	102.1×36.9　絹本著色	江戸時代	岡崎市美術館	岡崎藩主の本多家13代忠顕の筆によるもの。緑青、群青の鮮やかさが目を引く山水図である。
33	ぼたんにくいやくず　ほんだだだなかひつ 牡丹に孔雀図　本多忠考筆	120.8×59.4　紙本著色	江戸時代	個人	岡崎藩主の本多家14代忠考の筆によるもの。南蘋風を基調とした江戸の漢画の影響がみられる。軸の巻留に「忠考公牡丹に孔雀」と記されている。
34	おうぼず　ほんだだたもとしつ 桜馬図　本多忠民筆	27.5×40.9　紙本著色	江戸時代	長尾隆司氏	岡崎藩主の本多家15代忠民の筆によるもの。忠民は幼少より馬が好きで、自らの字を「子駿」と称した。

※ ①会期中に展示替えはありません。 ②展示目録の番号と展示順が一致しない場合があります。

〈主要参考文献〉

- ・岡崎市美術館『本多忠勝と子孫たち　―岡崎藩主への軌跡―』岡崎市美術館 2012年
- ・岡崎市美術館『隼人がゆく』岡崎市美術館 2006年
- ・岡崎市美術館『岡崎城　一城絵図と発掘資料―』岡崎市美術館 2002年
- ・岡崎市美術館『矢作川　川と人の歴史』岡崎市美術館 2000年
- ・岡崎市『本多家とその家臣団』第二版　岡崎市 2000年
- ・岡崎市『岡崎城　城と城主の歴史』第四版　岡崎市 2013年
- ・新編岡崎市史編集委員会『新編岡崎市史　近世 3』新編岡崎市史編さん委員会 1992年

- ・新編岡崎市史編集委員会『新編岡崎市史　史料　近世下 8』新編岡崎市史編さん委員会 1985年
- ・新編岡崎市史編集委員会『新編岡崎市史　美術工芸 17』新編岡崎市史編さん委員会 1984年
- ・新編岡崎市史編集委員会『新編岡崎市史　総集編 20』新編岡崎市史編さん委員会 平成5年
- ・岡崎市史料叢書編集委員会『長嶋家御用日記　史料叢書』岡崎市 平成22年
- ・中根家文書編集委員会『中根家文書 上』岡崎市 2002年
- ・中根家文書編集委員会『中根家文書 下』岡崎市 2005年